

特集「樽前 arty + が観た Still Living

～中村正人編～

美術家・藤沢レオの個展「Still Living」が苫小牧市立美術博物館で開かれています。藤沢にとって過去最大規模の個展であり、作家として実像を伝える貴重な展示です。藤沢が中心となり、美術展や教育現場でのワークショップを手掛けてきたNPO法人樽前arty+のメンバーが、個展を鑑賞し、それぞれの思いを随時、綴っていきます。

2回目は樽前arty+理事であり、本展の製作サポートを担った中村正人。

個展は12月2日まで。

私は藤沢の作品製作の手伝いをする事が多い。本展 Still Living においてもそうだ。だから、皆さんとは違う目線で作品を見る事が多いので少しだけ紹介したい。

「場の彫刻 大柱」

とても大きな作品。

作業当日、山の様な木材にびっくり…ビスを打ち込む腕が悲鳴をあげた。

是非、大きな柱を支えているビスの数々も注目して頂きたい。



「場の彫刻 大柱」にビスを打ち込む中村（左）



立ち上がった「場の彫刻 大柱」

「不在の森」

ピンクの糸、歩くとフワッと揺れる。

製作作業は慎重かつ繊細に進んだ。ピンクの糸は一つ一つテープがはみ出さない様に細心の注意をはらって、天上の格子に黒いガムテープで留めた。

完成してブルーライトが灯くとは知らなかった。あ、ガムテープが見えない…

会場では是非、目をこらして天上の格子も見たい。



「不在の森」製作風景

「柱の研究」

中庭の吹抜けの屋上に屋根を被せると藤沢が言った。もお驚かない。やってやろうじゃないか。

木材で骨組みを作るなど作業は順調に進んだ。そして最後に10枚の波鉄板（屋根板）に簡単な細工を施して藤沢に渡した。波鉄板には表裏があるということ知らずに。

結果、藤沢が張り付けてきた波鉄板と私の渡した波鉄板は表裏が合わず、重ならないまま完成した。だが屋根からは光は漏れていない。

藤沢は完成後、言う。

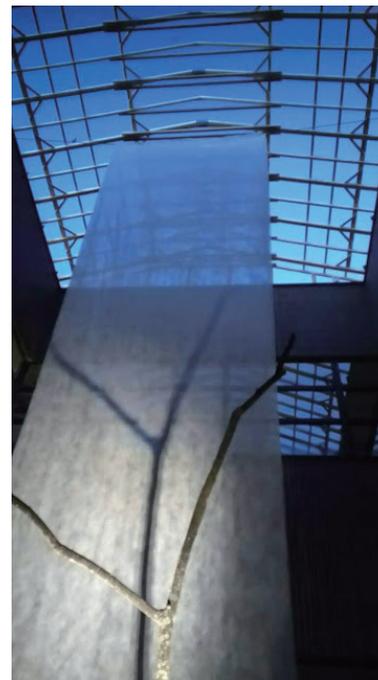
「きれいだね」

私は答える。

「うん。きれいだね。」

皆さんも是非屋根も見上げて下さい。

そう、私は皆さんと違う目線で作品を見ている。



屋根設置中の「柱の研究」

藤沢レオ

Still Living

スタイル・リビング

2018.10.6 sat - 12.2 sun 苫小牧市美術博物館

主催：苫小牧市美術博物館 共催：公益財団法人北海道文化財団 協力：NPO法人樽前artyプラス、株式会社ヨシダ、鴻野建設株式会社、株式会社山脇元洋建築構造設計
後援：北海道、苫小牧信用金庫、北海道新聞苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社、株式会社三星、北海道新幹線 nittan 地域戦略会議

それでもなお、生きられる。

— 展覧会情報 —

主催：苫小牧市美術博物館

共催：公益財団法人北海道文化財団

協力：NPO法人樽前artyプラス、株式会社ヨシダ、鴻野建設株式会社、
株式会社山脇建築構造設計

後援：北海道、苫小牧信用金庫、北海道新聞苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社、株式会社三星、
北海道新幹線×nittan 地域戦略会議

会期：2018年10月6日（土） - 12月2日（日）

開館時間：9:30～17:00（入場は16:30まで）※10月13日（土）は20:00まで

休館日：月曜日 ※10月8日（月）は開館、10月9日（火）は休館

会場：苫小牧市美術博物館（苫小牧市末広町3丁目9番7号）

観覧料：一般300（240）円、高大生200（140）円、中学生以下無料

※（ ）内は10名以上の団体料金 ※免除規定がありますのでお問い合わせください。

※年間観覧券でもご覧いただけます。 ※博物館常設展もご覧いただけます。

